

虹

2学年だより



N I J I

国見町立
県北中学校
H 30.6.30
(土)
第12号

1学期終わりに向けて 学校のリーダーとなるべく 準備を！

6月26日(火)に期末テストが終わり、今は”夏休みを待つだけ”という状況になり、心なしか地に足がついていない様子も見られます。

しかし、実は今のこの時期がとても大切になってきます。そこで、先日朝自習の時間を使い「学年集会」を開きました。

部活動は、多くの部活動が2年生中心の新体制に入りました。チームの主力としてそれぞれが自分の役割を果たす時がきました。このように少しずつ学校の中心となる2年生。夏休みまでのこの時期が学校のリーダーとなるべく準備をする大事な時間であることを話しました。準備が全てを決めます。どんな準備が必要なのかは自分で考え、行動に移していってほしいと思います。

また学習面では、今まで習ったところをワーク等を使い、1学期の復習をじっくりと行う絶好の時間です。分からないところを先生に質問したり、友達に聞いたりとわからないところをなくすよう、本気になって取り組む習慣をつけるよい時期です。 2学年主任 今村恵美子

漢字コンテストが 漢行われます。



7月12日(木) 6校時



今年も漢字コンテストが行われます。朝自習も漢字の練習になります。国語の授業の中で範囲表は配布され、あとは勉強するだけです。合格は80点以上ですが、満点を目指して頑張りましょう。さらに、学級対抗でもあります。こつこつと努力をしてみんなで優勝盾を勝ち取りましょう！！

いよいよ吹奏楽コンクール県北大会が行われます。心一つにしてすてきな音色を響かせてきて下さい。
応援しています



～吹奏楽コンクールに向けての意気込み～

佐藤くん

コンクールに出場することが初めてなので、緊張します。コンクールまであと1週間ですが、1日1日の練習を頑張り、金賞を獲って県大会に行きたいです。

清水さん

今大会は大編成に出場するため、課題曲と自由曲を演奏します。先生や講師の方から教えていただいたことを本番に生かせるようにしたいと思います。日々の練習の成果を出し切れるように、部員全員の心を一つにして大会に挑みたいです。

遠藤さん



このコンクールは先輩と出場する最後のコンクールです。先輩方と少しでも長く一緒に演奏できるよう全力を尽くして、県大会出場の切符を獲ってきます。

鈴木さん

コンクールに向けての意気込みは2つあります。1つ目は、今まで練習した細やかなポイントに気をつけて、悔いのない演奏をすることです。2つ目は、大会最後の先輩と初出場の後輩、そして先生とみんなでお客さん残された時間、集中して練習し、最高の演奏ができるようにしたいです。

遠藤くん

今回初めてコンクールに出るので、少し不安ですが、残りわずかな練習時間を今まで以上に練習したいです。そして本番では、たぶん緊張してしまうと思いますが、今まで教えていただいたことを思い出して演奏に臨み、金賞を獲って県大会に出場することを目指して、頑張ってきます。

鴨田さん



今まで周りの音を聞きながら吹くこと、先輩と同じ音量を出すことを心がけて練習に取り組んできました。初めてコンクールに出るので、今まで練習してきた成果を出せるようにし、緊張感を持って演奏してきたいです。また、みんなで心を1つにし、精一杯頑張ってきます。

♥来週の行事予定♥

	朝自習	○行事予定 ★提出・持参物
2月		○振替休業日
3火	漢コンの練習	○校内授業研究会 2の2 数学 *5校時まで短縮授業、簡単清掃 *部活動なし(吹奏楽部は活動あり) 15:15完全下校 WBC
4水	漢コンの練習	○全校集会、簡単清掃 *部活動なし(吹奏楽部は活動あり) +テスト結果通知 木1・2・4・5・火6 WBC
5木	漢コンの練習	WBC
6金	漢コンの練習	

※7日(土)・8日(日)吹奏楽コンクール
県北大会
7日(土) 数学検定

若いときにこそ、積極的に苦勞を求め、
いろいろなことに挑戦せよ

～智将(ちしょう)

小早川隆景(こばやかわたかかげ)の戒め～

「隆景、常に若者共に謂(いい)て曰く、
我心に合(かない)たることは皆身の毒
思ふべし。

我心にむつかしきことは皆薬となるべ
ことと思ふべし」

智将として名高い小早川隆景が、常に若者に言っていた名言である。何か、例えようのない力を秘めた言葉のように思える。この原文は、それぞれの立場で、違った味わいが出てくるのではないだろうか。

「我心に合たること」とは、自分の好きなこと、おもしろいこと、楽なことを指す。心に任せて行動動していると、将来のためにならない。体の毒だ、マイナスだと厳しい。

「我心にむつかしきこと」とは、自分の嫌いなこと、難しいこと、苦しいことを指している。若い時にこそ、積極的に苦勞を求め、いろいろなことに挑戦し、自ら困難に立ち向かえ、と激励しているのだ。「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と言われるように、人間形成に、大きなプラスになることは間違いない。

隆景は毛利元就の三男として生まれ、十二歳で小早川家に養子に入っている。さらに翌年から三年間、他家へ人質にやらされていた。

戦国乱世にあつて、信長と対立しながらも、あとに秀吉に信頼され、豊臣政権の大老にまでなった武将だ。生死の境を駆け巡った、数々の苦勞の中から、体験でつかみ取った教訓であろう。

毛利元就(もうりもととなり)

戦国時代の武将。安芸国(広島県)生まれ。

智将:戦術に優れた大将。

「こころの道」 木村耕一 著 より抜粋